

古代宮都の変遷

メモ)鉄本 2022.12.13

来館者のよくある質問に、「仁徳天皇の都(みやこ)はどこにあったのですか」があります。そこで、「宮(みや)」と「都(みやこ)」の違い、古代の宮都についてまとめました。

1. 「宮(みや)」と「都(みやこ)」の定義

宮都の変遷は、「乙巳の変」以前と以後により、その背景は異なる。飛鳥時代の宮(みや)は大王ごとに移動しており、その選定には大王を支持する豪族が大きく関わり、前代大王の居所と異なる場所を新大王の居所(宮)とすることが原則であった。それに対して白鳳時代以降の律令制導入による中央政権化を進める政権下では、豪族たちの意向を超越し、都市として計画され整然と区画された都(みやこ)が志向され。そこに天皇の住む宮が置かれた。

「都市」の定義：『日本大百科全書』によれば、都市は「みやこ」と「いち」を意味し、政治の中核、商業の中心地を示し、古代では主として政治・宗教・軍事の拠点である。日本最初の「都」は藤原京である。

2. 宮都の変遷

(1) 律令制以前

考古学的な裏付けはなく、記紀による「宮」の伝承場所は以下の通り。表記は『日本書紀』。

代	天皇名	王宮名	伝承される住所
10	崇神	磯城瑞籬宮	桜井市金屋 三輪小学校付近 志貴御県坐神社に石碑
11	垂仁	纏向珠城宮	桜井市穴師(纏向遺跡内)付近 石碑から900mに相撲神社
12	景行	纏向日代宮	同上 穴師坐兵主神社に石碑
13	成務	志賀高穴穗宮	大津市穴太 高穴穗神社に石碑 12代～14代の宮という説も
14	仲哀	角鹿笥飯宮 穴門豊浦宮 筑紫樞日宮	敦賀市曙町 気比神宮/角鹿笥飯神社 下関市豊浦町 忌宮神社 *いずれも行宮(かりみや) 福岡市東区香椎 香椎宮
15	応神	軽島豊明宮 難波大隈宮	橿原市大軽町 春日神社に石碑 大阪市東淀川区大桐 大隈神社
16	仁徳	難波高津宮	大阪市天王寺区餌差町 大阪府立高津高等学校内に石碑
17	履中	磐余稚櫻宮	説1: 桜井市池之内 磐余稚櫻神社 説2: 桜井市谷 若櫻神社
18	反正	丹比柴籬宮	松原市上田 柴籬神社に石碑
19	允恭	遠飛鳥宮	奈良県高市郡明日香村
20	安康	石上穴穗宮	天理市田町 穴穗神社
21	雄略	泊瀬朝倉宮	説1: 桜井市黒崎 白山神社に石碑 説2: 桜井市脇本 脇本遺跡 <有力説> 説3: 桜井市上岩坂 十二神社 説明板あり
33	推古	豊浦宮 耳梨行宮 小墾田宮	(592)奈良県明日香村豊浦 向原寺付近 (601)橿原市木原町 樋口神社付近 行宮(かりみや) (603)奈良県明日香村雷丘周辺 古宮遺跡が推定地
34	舒明	飛鳥岡本宮 田中宮 厩坂宮 百濟宮 (百濟大井宮)	(630) 奈良県明日香村岡 636年火災で焼失 (636) 橿原市田中町 (640) 橿原市石川町 厩坂は下ツ道の前身という説あり (640) 説1: 奈良県北葛城郡広陵町 説2: 桜井市吉備 吉備池廃寺付近 *敏達期は百濟大井宮の名称

35	皇極	小墾田宮 飛鳥板蓋宮	(642) 奈良県明日香村雷丘 (643) 奈良県明日香村岡 この地で「乙巳の変」
----	----	---------------	--



第10代崇神天皇王宮伝承地



第11代垂仁天皇王宮伝承地



第16代仁徳天皇王宮伝承地

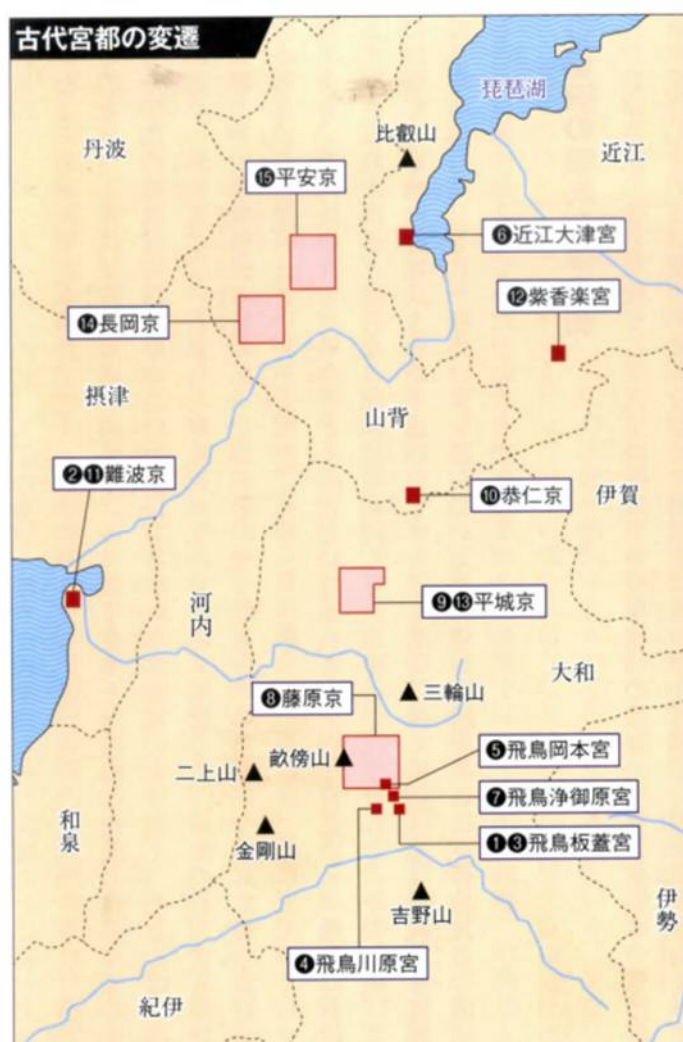


第35代皇極天皇王宮伝承地

第34代舒明天皇から第39代天武天皇までの王宮は、飛鳥の地に置かれた。当時の飛鳥は飛鳥川以東の飛鳥盆地に広がる、南北1.5km、東西0.8kmの平地部で、現在、飛鳥寺、飛鳥坐神社、伝飛鳥板蓋宮遺跡が見られる場所である。(=飛鳥時代)
今日では範囲が広がり、明日香村全体とその周辺地区を含めた場所を飛鳥としている。

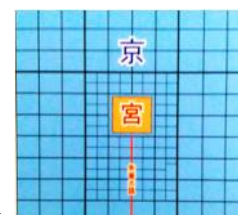
(2) 律令制以降

天皇名	即位及び遷都時期・京	No
35 皇極	643年 飛鳥板蓋宮	1
36 孝徳	645年 難波長柄豊碕宮	2
37 斉明	645年 飛鳥板蓋宮 (重祚)	3
〃	655年 飛鳥川原宮(行宮)	4
〃	656年 後飛鳥岡本宮	5
38 天智	661年 〃	
〃	667年 近江大津宮	6
40 天武	672年 飛鳥浄御原宮	7
41 持統	686年 〃	
〃	694年 藤原京	8
42 文武	697年 〃	
43 元明	707年 〃	
〃	710年 平城京	9
44 元正	715年 〃	
45 聖武	724年 〃	
〃	741年 恭仁京	10
〃	744年 難波京(後期)	11
〃	745年 紫香楽宮(離宮)	12
〃	745年 平城京	13
46 孝謙	749年 〃	
47 淳仁	758年 〃	
48 称徳	764年 〃 (重祚)	
49 光仁	770年 〃	
50 桓武	781年 〃	
〃	784年 長岡京	14
〃	794年 平安京	15



3. 古代都城の概念と最初の都「藤原京」

古代日本の都は、都の中央に「宮」を置き、その周囲を「条坊制」によって方形に区切られた区画を「京」と呼ばれる生活空間によって構成されている。(概念図参考)



『日本書紀』孝徳条に「飛鳥河邊行宮」を指し「倭京」という言葉が使われているが、飛鳥に整然とした計画都市があったという痕跡はない。孝徳期に上町台地上に難波宮が築かれたが、天皇の死後、都が飛鳥に戻った為、難波京の工事は中断し、条坊制を示すものも残っていない。天武期になって飛鳥と並ぶ「複都制」構想により難波京造成が進められたが、難波宮が焼失し工事は頓挫した。

(1)「藤原京」建設の背景

676年(天武5)に天武天皇が新たな都城の造営に着手し、天武天皇の遺志を継いだ持統天皇によって「新益京」が694年(持統8)に完成する。『日本書紀』では「新益京」と表記。「藤原京」は近世の学術用語。

①藤原京の設計思想: 理想の都城を周王朝の『周礼(しゅうらい)』冬官考工記に求めこれをもとに設計。

冬官考工記には、「方九里。旁三門。國中九經九緯。經徐九軌。左祖右社。面朝後市。市朝一夫。」とあり、その意味は、「王の都城は九里四方で、各一辺に三つの門を設け、城内には東西方向と南北方向との幹線道がそれぞれ九本あって、それぞれの道幅は九つの車が並んで通れる。(中央に王宮があって、王宮の)東に宗廟、西に社稷、前方(南)に政府、後方(北)に市場や娯楽場を設けて商人や旅客の集まる場所とする。」。(引用:論考「中国歴史城郭指式の一考察」曹陽 大阪大学)

②実際の藤原京: i. 5. 3kmの広大な正方形の京城 (大藤原説:1坊=530m 10条10坊)

ii. 東西南北に各9本の大路 (岸説では12条8坊)

iii. 中央に一辺1kmの藤原宮(朝廷)を配置 (大極殿と朝堂殿)

藤原京の範囲には諸説があり、次頁の図は「大藤原京」の範囲を示す。やや太い線で囲まれた部分(12×8)は、岸俊男氏による復元案である。

③『周礼』を理想とした背景: 白村江の戦(663年)以降、唐と敵対関係にあり国交断絶状態にあったこと。唐代の長安城を模範とせず、古典籍に理想の都城の姿を求めた。

(2)藤原京が都市である意味

①人口密度・集住

人口は約3万人と推定

②多様な職掌と流通センター機能

宮の後方に東西市を設置

③政治・経済・宗教的センター機能

中央政庁としての朝堂院

(二官八省一台五衛府)

鑄銭司(錢貨の発行)の設置

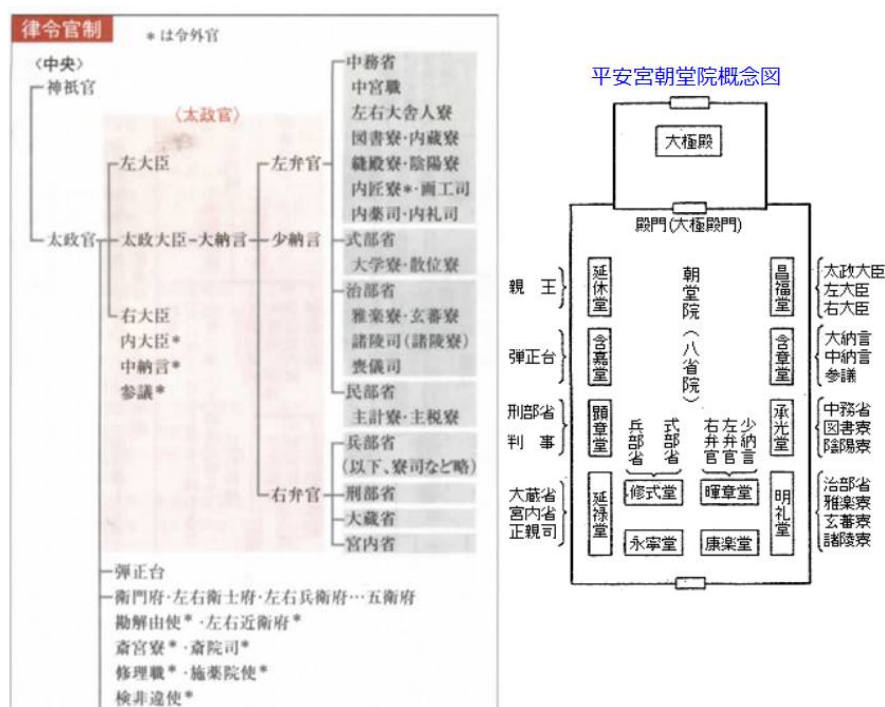
本薬師寺など

④首都機能

律令官制と「郡」制度

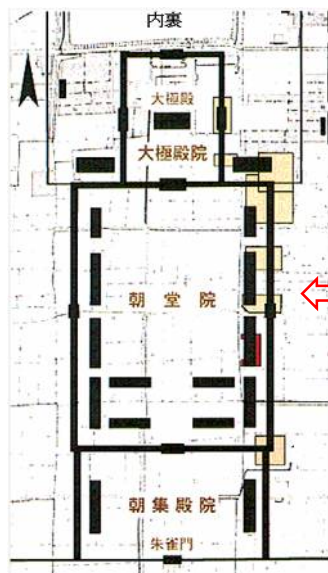
右図の出典:『歴史散歩便利帳』

山川出版社

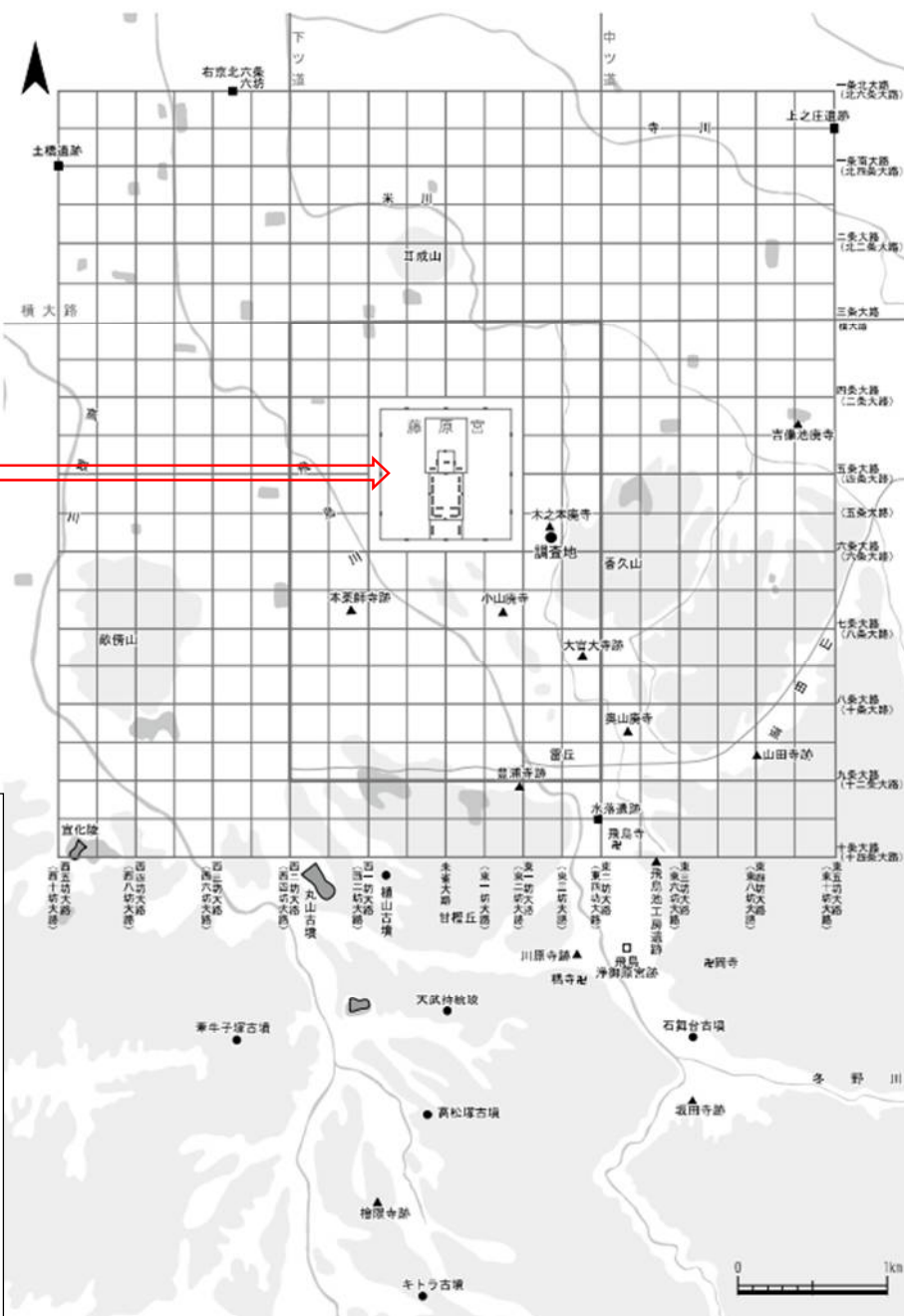


4. 藤原京復元図

【藤原宮の配置】



- ・大極殿：高御座が置かれ、天皇が政務を執り、賀正・即位などの大礼を行う場所。
- ・朝堂院：八省院ともいう。太政官に属する中央行政官庁。八省(中務、式部、治部、民部、兵部、刑部、大蔵、宮内)の官人が執務し、公卿が政務を評議し天皇が決済する朝政の場。即位、朝賀などの儀式に使用。



【参考文献】

- ・『飛鳥・藤原宮発掘調査報告 V』奈良文化財研究所学報第94冊 2017
- ・『蘇我氏の古代』吉村武彦 岩波新書 2015
- ・『地形と地理で解決！ 古代史の秘密55』千田稔 洋泉社 2019
- ・論考「中国歴史城郭指式の一考察」曹陽 大阪大学 1988
- ・『日本発掘！ ここまでわかった日本の歴史』文化庁編 朝日新聞出版 2015
- ・『難波京』(序章、前期、後期の3冊)リーフレット 大阪歴史博物館 2003
- ・橿原市 HP 「藤原京」